平成３年９月１１日　神戸新聞掲載

三洋電機洲本が2年連続V

鮮やかな先制パンチ

巧みな継投策　新明和の反撃及ばず

市対抗野球

最終日

第一回兵庫県都市対抗大会（兵庫県軟式野球連盟、神戸新聞社主催）最終日は十日、神戸市民球場で決勝を行い、三洋電機洲本（洲本市）が新明和工業（宝塚市）を3―2で下し、二年連続十三度目の優勝を飾った。

最優秀選手には、本塁打を含む6割の高打率（8打点）で優勝に貢献した三洋電機洲本の畑本威至外野手が選ばれた。敢闘賞は打率3割5分2厘をマーク、守備面でも活躍した藤本清司外野手、打撃賞は19打数9安打、4割7分3厘の中谷元内野手（いずれも新明和工業）が受賞した。

▽決勝

三洋電機洲本（洲本市）　3　0　0　0　0　0　0　0　0　0

新明和工業（宝塚市）　2　0　0　0　0　1　0　0　0　1

【評】三洋電機洲本が新明和工業の反撃を巧みな継投策で2点にとどめ、一回に挙げたとらの子の3点を守り切った。

三洋電機洲本は一回、先頭の岡本が四球出塁、すかさず中井のバントで二進させた。二死後、四番山口も四球で出塁し、一、二塁。折原の左翼フェンスにワンバウンドで入る適時二塁打でまず先制。続く畑本が2―0と追い込まれながらもうまく中前へ2点タイムリー打を放ち、この回、3点を挙げた。

新明和工業は一回裏、右中間二塁打の藤本を中谷が中前打で返して3―1。六回にも1点を追加するなど三洋電機洲本を上回る9安打を放ったが、あと一歩及ばなかった。

喜びの三塁受賞者。右から打撃賞の中谷元内野手（新明和工業）最優秀選手の畑本威至外野手（三洋電機洲本）敢闘賞の藤本清司外野手（新明和工業）

練習量では負けぬ

「絶対優勝」合言葉　会心の笑み片山監督

三洋電機洲本

古豪健在！「大会前から"絶対優勝しようぜ！"がみんなの合言葉。それだけ選手も気合が入っていたし、準決勝までは割と楽な試合展開でした。でも最後にこんな接戦になるとは…」苦笑いする三洋電機洲本の片山俊介監督。

練習量は県下のどのチームにも負けない、と自負。水、日曜日を除く毎週五日間、午後五時半から八時までの二時間半びっしり汗をかく。「大人の集団ですからね。勤務を終えた後もそれぞれが自覚しないと。」

ることながら自慢の機動力野球の強さの秘密がその熱心な練習ぶりにもうかがえる。二十一日からは秩父宮妃賜杯県大会が控えている。「一昨年は西日本での優勝経験があるし、今年もぜひと思っています」と片山監督。早くも次のターゲットに向けて闘志を燃らせていた。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
新明和	0	0	0	0	1	2	0	0	0	3
三洋	0	0	0	1	2	0	0	0	2	5